

図書館ニュース



「図書館のはじめ」

— 石上宅嗣と芸亭 —

学長 木本 好信

図書館はいつごろ誕生したのだろうか。西洋のことは詳しくないが、資料によればアッシリアの古都ニネベやバビロニアのニップールなどでは、文字を記した粘土板を集積したところがあり、図書館というほどではないが記録をまとめた場所が存在したらしい。本格的な図書館というと、プトレマイオス王朝（紀元前4世紀～紀元前1世紀）のアレキサンドリア図書館で、ギリシア語写本をギリシア本土からパピルスの姿で収集し、70万の卷子が収蔵され、8人が管理にあたっていたというが、紀元前47年にカエサル（シーザー）に焼き払われたことは有名な話である。

一方、日本ではどうだろうか。701年に成った『大宝令』は残存していないが、これをうけた養老2（718）年の『養老令』巻二「職員令」には中務省管轄下の「つしりょう図書寮」という官司の規定条文があって、そこには頭、助、大允、少允、大属、少属ら管理職の四等官とともに写書手・造紙手・造筆手・造墨手などの技術者70人がおり、長官の図書頭のもと、「宮中の図書の保管と国史の編纂」などの職務にあたっていたことが記されている。「宮中の図書の保管」というからには、図書を架蔵する倉庫、つまり図書館があったと考えるべきであろう。

しかし、残念ながら厳密な意味でいうと図書館ではない。それはこの図書寮が官人などを対象とした閲覧業務を一般的に行ってはおらず、あくまでも国史の編纂をはじめとする政治目的のために存在していたからである。

では、我われが認識する図書館はいつできたのだろうか。それは石上宅嗣の芸亭といわれている。宅嗣は、「文

人の首」といわれるように、奈良時代を代表する文人でもあったが、政治家としても藤原良継ら式家閥と連携し何度かの政争をへて、光仁・桓武両天皇の擁立に尽力して、大納言まで昇って政治の中枢に位置した（木本『律令貴族と政争』・塙書房）。

延暦16（797）年成立の『続日本紀』天応元（781）年6月辛亥（24日）条にみえる石上宅嗣墓伝記事の末尾には、「その旧宅…一隅に、特に外典の院を置き、名づけて芸亭と曰ふ。如し好学の徒有りて就きて閱せむと欲ふ者には恣に聴せり。仍て条式を記して後に胎せり」と、学問好きの人の閲覧を自由に許したとある。そのための規則も定めて後世に残したが、それによると宅嗣の設立意図は、仏教を優位としながらも儒教をも併せた一体思想にあったと恩師でもあった桃裕行氏はいわれている（『上代学制の研究』・思文閣出版）。

『日本高僧伝要文抄』の引く「延暦僧録」は、天平宝字年間（757～764）には成立していたというが、确实なところは宝亀2（771）年～3・4年の頃で、延暦年間（782～806）頃まで続いたとされる。どのように利用されていたのかは分からないが、『日本後紀』弘仁6（815）年6月丙寅（27日）条に、この時に亡くなった賀陽豊年が若かりし時に、「数年の間、博く群書を究む」とあるように、芸亭で多くの図書を閲覧したことが記されている。

また、空海の「綜芸種智院式」には、「備僕射ほくやくの二教、石納言の芸亭、此の如きなど院」とみえるから、備僕射つまり吉備真備（695?～775）も二教院という芸亭のような私学的な図書館を設けていたことが知られるが、その詳細は不明である。

私の出会ったこの1冊



「武士の家計簿」

—「加賀藩御算用者」の幕末維新一—
(磯田 道史／新潮社・新潮新書)

南 徹弘 (生活環境学科)

今から30年ほど前、私は東京の大学に勤務し、毎日の通勤に片道2時間もかかっていた。この通勤のそれも猛烈に混み合う電車の中で出来ることは、片手でもつことの出来る小さな本を読むことくらいであった。生物諸科学の新書を、平均して1週間に1、2冊を読み、その後の研究に大いに役立った。

大阪に戻り25年間ほど勤務して定年退職した後で勤務することになった短大への通勤で、久しぶりに本を読む時間がとれるようになった。たまたま寄り道した書店で偶然に目について入手して、いっきに読み終わり、あまりに面白かったこともあって、さらに数冊を注文して家族をはじめ友人にも送って読むように勧めたのが、この「武士の家計簿」である。

この本は、「金沢藩猪山(いのやま)家文書」という、金沢藩の何代にもわたる会計・経理の専門家である武士家族の家計簿に書き残された36年間ものきわめて長期間にわたる記録を、家計や財政的・経済的視点から詳細に分析している。その内容は、経済活動という視点を通して、江戸・明治・大正とその時代に生きる人間の日常生活における悩み、苦しみ、生活する上でのさまざまな工夫、人生における重要な選択など、その時代の人間の生活を具体的に我々に提示している。そのため、私のように、多くの事実を収集し分析して論理を組み立て、理論にまとめるという研究

をしてきたものから見ると、共通の思考様式と方法論をもっているだけに理解しやすく納得することの出来る内容であった。

商業は土農工商という封建制度の中で最下位に位置づけられていたが、商業活動においては、自由な発想や工夫、さらに豊かな人間関係が必要であり、このような商業活動が、やがて土農工商の枠組みを緩ませ、最終的には封建制度を内側から破壊して明治へと変容させたこと、および、江戸という封建時代から明治・大正という近代国家に大きく変わっていく時代のうねりの中で、人間がいかにか翻弄され、生き延びて明治・大正を迎えたかという歴史の裏側で起こってきたことを、ある家族の生活の変化を通して知ることが出来るきわめて重要な出版であるといえる。

~ちょっとひとこと~

『刀ではなく、そろばんで、家族を守った侍がいた』「武士の家計簿」は森田芳光監督によって映画化され、平成22年12月4日から全国でロードショーが行われています。

出演は堺雅人、仲間由紀恵、松坂慶子、西村雅彦、草笛光子、中村雅俊 他。

原作を映像化すると、どうなるのか？！

興味のある人は原作と映画の両方を体験してみるのも楽しいですよ！

随 想

「本との出会い」

永藤 清子 (幼児教育保育学科)

私には、子どものころ絵本に出会った記憶がない。埼玉県の農村地帯に育ち、遊ぶ相手のいない末っ子の私は、父母に連れられて畑に行き、周囲を山で囲まれた里山でかけ回っていた自分の姿だけを鮮明に覚えている。

詩集や小説に興味を持ちだしたのは、高校生になって電車通学をするようになってからである。同じ高校に進学した人が少なかったため電車内で十分な読書の時間が持てた。島崎藤村や夏目漱石の作品にも出会った。作家の初期の作品から年代を追って読むのが好きで、読み通すとその作家の歴史や人生観がわかったような気がして嬉しかった。子育てが一段落して企業に再就職、2時間かけて通勤していた時には、現代訳された源氏物語を読みふけた。大学時代に読んだ谷崎潤一郎の源氏はあまり心に響かず長い間忘れていたが、仕事帰りにたまたま入った書店で目にとまった田辺聖子の源氏を読んで以来、与謝野晶子、円地文子とたて続けに女性作家の源氏を読み、いま瀬戸内寂聴の訳本を手元に置いている。

絵本に出会ったのは、自分が子育てをするようになってからである。仕事を辞め時間がたっぷりある中で、子ども達の昼寝や就寝前によく絵本を読んだ。むしろ私が興味を持ったからかもしれない。ディック・ブルーナ文・絵、石井桃子訳の「きいろいことり」「ふしぎなたまご」「じのな

いえほん」「ちいさなうさこちゃん」などのシリーズは絵の色も線もわかりやすく、読み終えたすぐそのあとに、子ども達から“もう一回読んで”とせがまれ困った思い出がある。

いまでも手元に残してある1冊の絵本がある。後藤竜二・文、岡野 和・絵「くさいろのマフラー」である。この絵本は、北海道美唄市出身の後藤が厳しい冬の原体験をもとに書いた初めての絵本である。小学校1年生のコウくんが、冬になると出稼ぎに行くお父さんとお母さんが帰る春を心待ちにしている様子が、静かに伝わってくる。お母さんに編んでもらったくさいろのマフラーを首に巻いて、すっぱり雪に埋もれた景色のなか学校に通う姿、大切なマフラーを北風に飛ばされて無くしてしまったこと、お父さんもお母さんも帰ってこないのではないかと悲しくなったこと、長い冬の終わりにマフラーが見つかって、拾い上げたその下からフキノトウが3つ顔を出していたことなど、思わず涙が出てくる描写が随所に散りばめられている。子ども達に読み聞かせをするたびに涙が止まらなかったことを思い出す。すっかり成長した子ども達が集まると「くさいろのマフラー」を読みながら、私がいつも涙を流していたとひとしきり話題になる。嬉しいことに子ども達の家庭でも大切な一冊の絵本になっているようだ。

「自我のはたらき」

下道 省三（生活環境学科）

本を読む動機は人さまざまであろうがその中の一つに、その本を読めば今気になっている問題の解決に役立つかもしれないというのがあるだろう。最近の新聞にチャールズ・テイラー著（下川潔ほか訳）『自我の源泉—近代的アイデンティティの形成—』という本の書評（評者姜尚中氏）が出ていて、「自我は善と結びつけられることで、正しい行いという狭苦しい道徳から解き放たれ、自分の尊厳や価値ある生き方や人生の意味と生き生きとした関連を見いだすことができることになる。」というように書かれてあり、もし本当にそうならば私がいま感じている現代社会の人間関係の問題に何らかの理解の糸口が得られるのではないだろうかと思ひ、次の日学校の帰りにジュンク堂へ寄ってその本を見つけ、その分厚さに驚きながらも近くの椅子に座って少し読んでみた。しかし少々高額（9975円）だし、むやみに買ってあまり読まなかったということにならないように、その日は購入するのをやめた。

家に帰ってから、現実問題としてその本から何が得られる（何を読み取れる）のだろうか、テーマは関心があるが語用論などと違うので、いまの私にとって役に立つ認識（考え方）や心構えにつながるのだろうか、結論のところだけを読むことになるならほんとうに役に立つことにはならないのではないだろうか、思い違いをしていたとわかることがいくつかでもあればよいのではないかなどと、いつものことであるが「下手の考え休むに似たり」になってしまった。解決を得ようとする態度がいけないのだろうなどと、いつもの悪い癖が出てしまいそうである。最後は「善を善と知りながら快樂に負けてそれを行なわない」（藤沢令夫の『プロタゴラス』（岩波文庫）の解説）ことになってしまわない

ように、ほんとうに知りたいのならそのための努力をしなければならないなどとも考えた。結局、その二日後にその本を購入した。

先ほどあげた私の問題は、「情けは人の為ならず」（本来の意味での）的な道徳意識は果たして現代の人たちには必要がないのか、そのような自我はかえってじゃまになるのかという問題である。今のところ私はそのことわざを実践するような自我が形成されることは大切なことだと考えている。自我に関連して、現在の便利なインターネット社会での自制についてふれてみたい。インターネットでは、本に限らずほとんどあらゆる商品がすぐに買うことができ、次の日には自宅に配達してくれる。レジに並んで自分が買おうと（借りようと）する商品が周りの人に分かってしまう恥ずかしさを感じなくてすむ。しかし一般に便利さには気をつけたほうがよいと思う。（すでに電子機器類による便利さのない生活などは考えられないのであるが。）この問題については行動文化（規範文化）が追い付いていないという分析もできようが、人間の欲求のコントロールの必要性という問題でもあると思う。欲求を制止するものが必要だなどという、「ナンセンス」だと言われそうであるが、自我はインターネットやゲームを欲望のままに操ることを中止させたりもする。ところで『自我の源泉』は読み始めたばかりなので私の結論は現時点ではまだまとまっていない。



「図書館が変わる？」

吉井 隆（生活環境学科）

米アップル社の新型情報端末「iPad」が発売され、電子書籍なるものが巷を騒がせている。欧米には、約70万冊の電子書籍を販売する電子書店が存在すると聞く。国内でも、コミックや雑誌に加え文庫本や実用書、最近ではベストセラー作品や話題作も電子化がすすめられ、またニュースや経済誌などの週刊誌類も定期購読できるようになってきた。今後普及するかどうかはまだまだ分からない状況であるが、とりあえずどんなものかパソコン上から試読してみることにした。

電子書籍にはさまざまなファイル形式がある。それに依りてソフトも数種類存在する。それらは簡単にダウンロード可能で、読みたい電子書籍のファイル形式に応じてソフトを選択すればよい。電子書籍は、書籍の体裁にまとめられたデジタルコンテンツであり、基本的にクリックすることでページがめくられる。特徴としては、文字の大きさや書体を自由に換えられたり、また途中でしおりを設定しておく、次読む場合ワンクリックでつづきが表示されたりする。色などのページのスタイルを選択できるものもある。従来からインターネット上にはさまざまな情報が公開されており、ホームページの形で情報を閲覧することは可能で

ある。従って特に目新しくないといえそうともいえるが、電子書籍は、それらを本という形にまとめ加工したもので、書籍という形に特化した点では、新しい技術といえよう。

電子書籍の特徴は、他にもいろいろある。本屋に買いに行く必要がなく、インターネット上から購入可能である。地方の小さな町でも自由に書籍が買える。また、一台の端末に複数冊の本を保存することができ、持ち運びが容易でいつでも自由に選択して読むことができる。保管場所を心配する必要がない。紙という資源の保護、流通の簡素化などメリットは大きい。

IT社会を迎え、われわれの生活は大きく変わりつつある。電子書籍を閲覧するハードウェアも充実してきている。パソコンやスマートフォンと呼ばれる多機能携帯電話の他に、今後国内メーカーから電子書籍の閲覧に特化した、バッテリーでの駆動時間が長い薄くて軽い専用の電子書籍端末や、通信機能を搭載したタブレット型コンピュータなどが発売される予定である。一方書籍の電子化も、複数の企業が協業し電子書店を開設し、コンテンツは充実すると予想される。今後、図書館のあり方も大きく変わるかもしれない。

「きみと一緒に生きよう」

田中 祥子（生活環境学科）
（三甲野）

ペットとして身近な犬。平成21年の一般社団法人ペットフード協会の調査結果によると、犬を飼っている世帯は約20%であった。人間と犬の暮らしはありふれたものであり、単なる愛玩動物としてではなく、家族の一員として、かけがえのない存在として共に生活しているケースも多いだろう。一方、飼い主の都合で捨てられる犬が後を絶たない。飼い主が直接保健所に持ち込む場合もあれば、捨て犬となったが、鳴き声等の苦情で通報されるなど多くの犬が保健所に収容されている。その後の彼らの運命をご存じだろうか。引き取り手がなければ殺処分されるのである。平成18年度のNPO法人地球生物会議ALIVEのデータによると、その数は年間8万頭に及ぶ。そんな中、捨て犬、野良犬、迷い犬、保健所に収容された犬など様々な境遇の犬を保護し、新しい飼い主を見つける活動に取り組んでいる団体がある。今も里親を探す多くの犬の情報がインターネット上に掲載されている。

本書では、保護した犬の里親を見つける活動を通して、

殺処分されていく多くの救われないのち、救えないのちがある厳しい現状と、ほんの一握りではあるが、取り組みによって救われたいのちの物語が紹介されている。偶然が重なって助かったいのち、親子一緒に助かったいのち……。

『愛がなくては始まらない。愛だけでは守れない』という著者の言葉がある。飼い主には単に犬を愛しむ気持ちだけでなく、その犬の一生と向き合う覚悟が必要なのである。一度人間に捨てられ、恐怖心が残る犬と暮らすことや、重病を患った犬と暮らしていくことは並大抵のことではない。それでも共に生きようとする犬と人間との間にあるきずなとは何か。本書における犬と人間の物語からは、互いに試行錯誤しながら付き合っていく中で、犬も人間も互いに影響を与えながら成長していく様子がうかがえる。いのちについて、いのちと向き合うことについて考えさせられる一冊である。



インターネット検索方法について その⑨

『国立国会図書館レファレンス研修に参加して』

2010年2月25日・26日の両日、国立国会図書館で行われた「レファレンス研修」に参加してきました。この研修は、全国の公共図書館および大学図書館員を対象としたレファレンス（参考業務）サービスの実務能力向上を目的として毎年実施されているものです。図書館に持ち込まれる様々な調査依頼をどのように解決すればよいのか、レファレンス・プロセスの考察、検索戦略の分析などの講義の他、国立国会図書館員による具体的な検索ツールの紹介もあり、とても有意義な研修でした。

ところで、みなさんは国立国会図書館について、どんなことを知っていますか？

国立国会図書館は、立法府である国会に属しており、国会の諸活動を調査・情報面で補佐するという重要な役割を担っています。また「納本制度」に基づき、日本国内の出版物（地図、録音資料、マイクロフィルム、CD-ROMなどを含む）を広く収集しています。満18歳以上なら誰でも利用できますが、個人に対する館外貸出は行っていません。公共図書館・大学図書館・専門図書館には館外貸出をしてくれますので、本館を通して申し込みすれば閲覧できます。

国立国会図書館は、ほとんどの資料が書庫に収められ、申請することによって閲覧ができる閉架式図書館です。反対にどの書架からも自由に閲覧できるタイプを開架式図書館といい、本館も開架式です。

閉架式図書館では、カバンなどの持ち込みが禁じられており、国立国会図書館でも入館時に荷物をコインロッカーに預けます。財布、筆記用具、貴重品などは備え付けの透明袋に入れて持ち歩くことができますが、B5判以上の不透明な袋物（カバン・紙袋・封筒）、ヘッドフォンステレオやラジオなどの音響機器、コピー機、カメラ、ビデオ、スキャナー、刃物等の危険物、傘、その他資料を汚損する恐れがあるものは持ち込みを禁じられています。パソコンは指定の場所なら使用可能です。

入口に設置されているカード発行機の画面ガイダンスに従って、名前、住所、電話番号などを入力すると、館内利用カードが発行され、改札機のような入館ゲートに利用カードを触れさ

せて館内に入ります。この利用カードは、資料の検索、請求、受取、返却、複写の際に必要で、退館時に回収される仕組みになっています。

国立国会図書館は、中央図書館としての東京本館及び関西館があり、この他に国際子ども図書館、行政・司法各部門に置かれた支部図書館があります。

今回、研修が行われた東京本館は永田町にあり、目の前に国会講事堂、館内には憲政資料室や議会官庁資料室などを備え、まさに国会の図書館という印象を受けました。平成20年度の蔵書数が総計35,648,652点、1日の平均入館者数が1,644人、年間では457,140人が入館しているということですから、規模の大きさが想像できるかと思います。

一方、京都の精華町にある関西館では事前予約制で参観を行っており、関西館を紹介したビデオ上映や利用者スペース、書庫などの館内見学ができます。この他にコンピュータ管理された自動書庫や利用者スペース等を案内してもらえるガイドツアーも行っています。詳細は国立国会図書館のホームページ<<http://www.ndl.go.jp/>>から関西館を選び、確認してください。

国際子ども図書館は東京上野にあり、1906年（明治39年）に建設されたルネサンス様式の代表的な明治期洋風建築として、東京都選定歴史的建造物に指定されています。管理している児童書総合目録では、国際子ども図書館、国立国会図書館のほか、日本国内で児童書を所蔵する主要類縁機関である大阪府立中央図書館国際児童文学館*、神奈川近代文学館、三康文化研究所附属三康図書館、日本近代文学館、東京都立多摩図書館、梅花女子大学図書館、白百合女子大学図書館の7機関が所蔵する児童書・関連資料の所蔵情報を一元的に検索できます。

*平成22年4月1日より大阪国際児童文学館は大阪府立中央図書館内に移転。

機会があれば、ぜひいずれかの図書館を訪ねて、図書館の奥深さを体験してみてください。

（司書・猿丸 恭子）

新 着 図 書 紹 介 目 録

この目録は、平成21年4月から9月にかけて図書館で購入した図書140冊のうち、各学科の先生方がぜひ皆さんに読んでほしいと推薦された図書の一覧です。分類番号の見方は、館内掲示の「本の探し方」を参照してください。

書 名	編著者名	発 行 所	分類番号	書 名	編著者名	発 行 所	分類番号
よくばらない	鎌田 實	PHP研究所	159	ターミナルを生きる —患者と家族のこころを支える看護	秋元 典子	学研マーケティング	492.9
図解 おもしろ子ども菜園 —教室、ベランダ、軒先で	竹村 久生	農山漁村文化協会	374.7	ひとと植物・環境 —療法として園芸を使う	山根 寛	青海社	493.72
子どもの発達と描画 —保育・障害児教育の現場から	板井 理	かもがわ出版	375.72	素敵な手づくりウエディング 小物	川名 晶子 他	ナツメ社	594
3歳児の保育資料・12か月のあそび百科	阿部 恵 編著	ひかりのくに	376.1	ハンブのかぎ針編みこもの		ブティック社	594
4歳児の保育資料・12か月のあそび百科	阿部 恵 編著	ひかりのくに	376.1	小さなパッチワークキルトと 布小物		主婦と生活社	594.9
5歳児の保育資料・12か月のあそび百科	阿部 恵 編著	ひかりのくに	376.1	リラックマのかわいいフェルト トマスコット	主婦と生活社 編	主婦と生活社	594.9
子どもとことばの世界 —実践から捉えた乳幼児のことば と自我の育ち	今井 和子	ミネルヴァ書房	376.11	ウェディングプランナーになり たいきみへ —現役プランナー11人のリアルストーリー	ウェディングプ ランナー育成会	幻冬舎	689.7
伝わる心がめばえるこころ —二歳児の世界	神田 英雄	かもがわ出版	376.11	だるまん㊟	かがくいひろし	ブロンズ新社	726.5
子どものトラブルをいっしょに 解決！絵本で育てるソーシャ ルスキル	渡辺 弥生 編著	明治図書出版	376.159	だるまん㊿	かがくいひろし	ブロンズ新社	726.5
ウエディングアイテム —演出小物&ギフト演出小物&ア イデア準備ガイド	明 一美	芸文社	385.4	介護漫才 —筋ジストロフィー青年と新人へ ルバーの7年間	貝谷 嘉洋	小学館	916
アウトドア・ウェディング —おとぎ話のような・忘れられな いウェディング	メアリー・ダフィー 他	フレックス・ファーム	385.4	福尾野歩 あそびうた大全集 (1)あ〜お あしたも元気で	<CD>	オフィスNOBO	760.7
植物の利用30講 —植物と人とのかかわり	岩槻 邦男	朝倉書店	471.9	福尾野歩 あそびうた大全集 (2)か〜す キャベツはキャッ	<CD>	オフィスNOBO	760.7
私がしたことは殺人ですか？ —この本を手にとってくださった あなたにお聞きしたいの	須田 セツ子	青志社	490.15	福尾野歩 あそびうた大全集 (3)そ〜ね 大工のきつ付さん	<CD>	オフィスNOBO	760.7
死は誰のものか —高齢者の安楽死とターミナルケア	斎藤 義彦	ミネルヴァ書房	490.15	福尾野歩 あそびうた大全集 (4)は〜わ HAI! HAI! HAI!	<CD>	オフィスNOBO	760.7

就 職 関 連 ・ 資 格 取 得 関 連 図 書 よ り

この目録は、平成22年4月から9月にかけて、就職活動や資格取得活動のために購入した図書の一覧です。分類番号の見方は、館内掲示の「本の探し方」を参照してください。

書 名	編著者名	発 行 所	分類番号	書 名	編著者名	発 行 所	分類番号
就職試験の適性検査 (11年版)	成美堂出版編集部	成美堂出版	336.42	介護福祉士ワークブック 2011(下巻)	ミネルヴァ書房 ワークブック編 集委員会 編	ミネルヴァ書房	369
女子学生のための最強の就職 面接 (11年版)	成美堂出版株式 会社	成美堂出版	336.42	聞いてしまえばとっても簡単！ 数学1 —本質の講義	長岡 亮介	旺文社	375.41
大学生就職15日間スピード 一般常識 (2011年度版)	就職試験情報研 究会	一ツ橋書店	336.42	幼稚園試験幼稚園採用試験問 題200選 (2011年度版)	幼稚園採用試験 研究会	大阪教育図書	376.1
筆記試験の完全攻略 (2011年度版)	内定ロボット 日経就職ナビ編 集部	日経HP	336.42	幼稚園教員採用試験 (2011年度版)	教員採用試験 情報研究会	一ツ橋書店	376.14
やさしいSPI2 (2011年度版)	家坂 圭一	一ツ橋書店	336.42	幼稚園ランナー (2010年度版)	東京教友会	一ツ橋書店	376.14
やさしいグループ面接 (2011年度版)	源田 義平	一ツ橋書店	336.42	13歳の進路	村上 龍	幻冬舎	376.8
新13歳のハローワーク	村上 龍	幻冬舎	366.29	漢検3級過去問題集 (平成22年度版)	日本漢字教育振 興会 編	日本漢字能力検定 協会	811.2
介護福祉士ワークブック 2011(上巻)	ミネルヴァ書房 ワークブック 編集委員会 編	ミネルヴァ書房	369	漢検準2級過去問題集 (平成22年度版)	日本漢字教育振 興会 編	日本漢字能力検定 協会	811.2

『博士の愛した数式』

(小川 洋子 著／新潮社)

幼児教育保育学科 I 回生1組 藤田 智美

この本に出てくる博士は、記憶がたったの80分しか持続しないという障害を持っている。博士の記憶は47歳の時のものが最後で、それまで研究してきた数学の定理などは覚えているが、その後の記憶は何一つ残っていないのである。そのため、忘れてくれないものに関しては、メモに書留め、それを自分の背広にたくさん貼り付けている。そんな博士が唯一愛しているのが、彼が大学の教師であったときに自ら研究していた数学であった。

この博士のもとに一人の家政婦が現われる。彼女には息子がおり、そのことを知った博士は息子を連れてくるように言い、その子をルートと名づけ、自分の孫のように可愛いが。ルートは学校から帰ってきて博士と一緒に算数の宿題をするのが楽しみで仕方がなかった。彼の教え方はすばらしく、また、彼は「分からないことはいいことだ」と教えていた。しかし、悲しいことに、その記憶も80分しか持続しないため、次の日になれば記憶から消えているのである。

私は、博士が記憶障害でありながら、いつも前向きに生きている姿に感動した。授業がめんどくさかったり、テストがうまくいかなかったりするだけで、すぐ投げだしてしまう自分が情けなく思える。これらのことはすべて自業自得なのに、何かものに当たりたりくなり、すべてに言い訳を作りたくなる。しかし、博士は違った。彼は、いつも自分の書斎で数学に没頭し、記憶障害でありながら、懸賞金の問題に取り組み、応募しているのである。彼にとって数学は自分の命の次に大切なかも知れない。

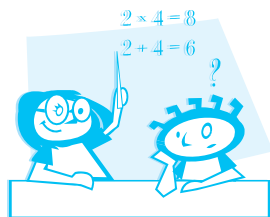
博士は、家政婦にいつも玄関で尋ねる質問があった。それは数についての質問であった。「誕生日はいつ?」「あなたの出生時の体重は?」などいろいろな質問をしながら、博士は数の美しさや奇跡を家政婦に伝えていた。彼女はこの質問に最初は驚いていたものの、気づいた頃には、友愛数の連帯感や完全数の奇跡、素数の美しさののめりこんでいた。

正直なところ、私は高校の頃は数学なんてどうでもいいと思っていたし、数学は受験を乗り越えるための手段であり、実生活に何の役にも立たないと考えていた。分数の計算さえできれば世の中を渡っていくのに十分で、保育士になるにはこれ以上のことは全く必要ないと思っていた。しかし今、数学は実用生活に役立たせるためのものではなく、そこにある美しさを見つけ出すことを目標とする学問であるということに気づいた。私たちが $1+1=2$ と当たり前のように感じていることが実は奇跡であって、 $1-1=0$ の存在は本当の奇跡であることがわかった。この事実を知っていたら、どれだけ興味を持って数学に打ち込めていただろうかと今さら後悔したくなる。

博士には数学以外にもうひとつ愛していたものがあつた。それは野球であった。ところが、彼は野球の試合を見たことがない。そこで、そんな博士のために家政婦はルートと3人で野球観戦をしようと言いつた。家政婦は、会社の規則を破ってまで博士に自分の愛情を注いだのである。彼の記憶が80分後には失われていることを知っていても、彼女は精一杯のことを博士のためにした。スーツにたくさんのメモを貼りつけた博士に対する周りの冷たい目を気にせず彼女は行動した。初めて博士に会った時はぎこちない雰囲気だったのがここまで変わったのは、博士の愛する数学が博士自身と家政婦、そしてルートの絆をどんどん深めていった結果だと私は思う。3人はオイラーの公式によって結ばれた。それは彼らの固い絆をあらわしているように感じられる。私はオイラーの公式が意味するところのものをあまり理解はできないけれど、自然対数 e と呼ばれる無理数と円周率の π と虚数 i と呼ばれる想像上の文字3つに1を足すだけで0になって調和するのだからとにかくすごいことにはわかった。

物語の最後では博士は亡くなってしまふ。だが、博士は家政婦とルートの心の中にいつまでも生き続けるのだと私は思う。そうでなければ、オイラーの公式は本当に美しいとは言えない。

〔評〕 作品を登場人物の心情をふまえて深く読みこんでいるところに藤田さんの豊かな内面性を感じます。作者の思いに迫る優れた感想文です。



『人間失格』を読んで

(太宰 治 著／新潮社)

幼児教育保育学科 I 回生1組 宮本 綾乃

私はちょうど一年前、この『人間失格』を読みました。しかしその時は、この作品を通して太宰治が伝えたかったことは何なのか、生誕百年目にして、彼が今でも若い読者からの圧倒的支持を受けている理由は何なのか、よくわかりませんでした。そこで今回、宿題というチャンスを使って、もう一度この作品を読んでみようと思います。一度目に読んだ時に見たものは、ただ何かに怯え、逃げまどう太宰治の姿でした。『人間失格』という題も意味不明でした。今度こそ、一度目に感じる事のできなかった彼の思いを見つけていきたいと思ひます。

読むと不思議な感覚になりました。「太宰治」が人間ではないような気分です。人間になりたい飼犬のような目線で描かれているように思ったからです。「もはや人間と一緒に住めないのではないかしら、と思ひ込んでしまうのでした」という文があります。彼も人間のはずなのに、別の生き物のような言い方です。

なぜそのような描き方をしたのか遡ることにしました。太宰治は幼少期、とても裕福だったようで、周りからもかわいがられていたのがわかります。それがかえって、太宰少年を不安にさせたのではないかな、と思うようになりました。その不安というのは、私にも経験があることでした。隣にいる人の心をバタリと当てることなんて誰もできません。しかし、「その言葉の奥に何が隠れているのか」「それは本心なのか」という、心をもっている生き物だけの悩みは、人間誰でも経験すると思ひます。彼もこれがとても恐かったようです。「世の中のすべての人々と幸福の観念がまるでちがっている不安」という文からは私は、かわいがってくれる言動の奥に何を思っているのかか恐かったのではないかと思ひました。ああ、人間らしいなとも思ひました。私はそんな不安を抱えた時、そんな考えの人もいるんだなあと、相手を認めるということをしなす。しかし、太宰治は違ひました。「相手に合わせる」ということを幼くして始めます。自分を殺し、家族にさえ気を遣って生き始めた彼は、「お道化」をすることによって本当の事を一つも言えない子になってしまひます。それでも人間になりたいと願う彼は、「お道化」のことを「自分の人間に対する求愛」とまで言っています。

そこまでして求める太宰治のなりたい「普通の人間」とはどんな人間なのでしょう。そもそも普通って何なのでしょう。私が普通すぎて普通に気づけずにいる、太宰治の考えに近づけないのでしょうか。生き返って説明してもらいたいとさえ思ひました。しかし、「あざむき合ひながら清く明るく朗らかに生きるみたいない人間が難解なのです」という言葉を見て、ハッとしまひました。太宰治は人間にならなかつたのではないかな。そんな思いが湧いてきました。つまり、人間の表と裏、誰にでもあるこれを太宰治は嫌い、こんな人間にならなかつた、信用できないと思うあまり、周りの人間全てに信用の殻を固く閉じたのではないかと思ひました。

人間を恐れ自分と別の生き物として接する太宰治は、いったい何者なのか。疑問をもって読みすすめると、「同類」という言葉が何度も出てくるページにぶつかりました。やはり、人間ではないらしく、性別もなく、他の人間と比べるとすれば気が狂っている。そして、哀しいくらい、実にみじんも怒というものがなひ。それは太宰治の自己分析だったのでしょ。表と裏がないというよりは、裏の顔ができなかつたから、丸裸の自分を守るためにお道化をして嘘の自分を作り上げていたのではないかな。だけとそれは、自分に裏の顔を着せているのと同じことではないのかと感じた時、太宰治が最も恐れている「人間」へと近づいているのが見えました。彼はそんな自分自身が恐ろしくなり、自分自身から逃げ続け、酒や煙草に女、最後には薬に助けを求めたのだと、『人間失格』の全貌を感じ取りました。

私は逃げるという言葉も行為も嫌ひです。弱い人間のことだと思ひているからです。しかし、本当は彼は逃げていませんでした。太宰治に一貫しているのは、「自分をごまかしながら他人との人間関係を適当にごまかしている自分を、さらにいえばそういう自分を許している自分を、許せなかつた」という姿勢です。逃げるどころか、ぶつかっています。太宰治という人間は、なんて勇気のある「人間」なのだろうか。心から尊敬しまひました。そして、なぜ今でも『人間失格』が若者から支持されているのかわかつた気がしまひます。それは、この作品の奥から伝わる若者達へのエールです。

辛く苦しむ悲しい毎日、死にたくなる夜に迷ひ込むこともある私の「これから」に、心の見えない相手と向き合っていくことの難しさを通じて、生きることがどれほど大変かを教えてくれる。けどその奥に「逃げるな」という応援メッセージが隠れています。私も勇気をもって生き、太宰治のように命を燃やしていきたいです。

〔評〕 昭和前期の大作家、太宰治の代表作のひとつと、文字どおり全力で格闘した様子がひしひしと伝わってきます。そうした真剣勝負からこそ、大きな収穫が手に入ることを証明してくれる感想文です。

『図書館ガイダンスについて』

平成22年度は、図書館ガイダンスを2回実施しました。

☆「図書館ガイダンスⅠ」

- ・開催期間：5月10日（月）～5月21日（金）
- ・参加人数：Ⅰ・Ⅱ回生、7名（希望者制）

結果的には、とても寂しい参加人数になってしまいました。初めてのレポート提出などで、とまどっているⅠ回生がいれば図書館を有効利用してほしいのですが、PR不足もあったようです。詳しい内容は以下の通りです。

- ①図書館の本を探そう
 - ・日本十進分類法って何？
 - ・書名目録カードを上手に活用しよう！
- ②インターネットを使って情報収集してみよう
 - ・効果的な検索キーワードを見つけよう！
 - ・他図書館の蔵書も検索してみよう！
 - ・実習先や就職先の情報、どうやって調べるの？
- ③相互貸借・文献複写について
 - ・雑誌論文を探してみよう！
 - ・図書館に文献がなかったらどうするの？
- ④著作権について知っておこう！
 - ・引用文献と参考文献、どこが違うの？

☆「図書館ガイダンスⅡ」

- ・開催期間：10月4日（月）～11月2日（火）
- ・参加人数：Ⅰ・Ⅱ回生、76名（授業利用ガイダンス）

ガイダンスⅡでは先生方にご協力いただき、授業中に情報処理室を使ったガイダンスを実施しました。その結果、

ガイダンスⅠをはるかに上回る参加人数となりました。このガイダンスを受けた人が、様々な検索方法に興味を持ち、来館して調べ物の達人になってくれることを願っています。

ガイダンスⅡの詳しい内容はⅠと重複しますが、新たに甲子園大学図書館と共同利用できる蔵書検索システム「Hello Library」について紹介をしました。

「Hello Library」とは、学内のパソコンを利用して短大や大学の蔵書を調べることができる検索システムのことです。アクセス方法は短大ホームページの図書館のコーナーにある「図書館蔵書検索」という赤い文字をクリックするとつながります。ぜひ試してみてください。

ガイダンスでも注意を呼びかけましたが、近年インターネットから安易に情報をコピーし、ペーストしてレポートや論文を仕上げる人が増えているようです。2010年10月30日（土）の毎日新聞や11月1日（月）の朝日新聞によると、「コピペ（コピー＆ペースト）論文」を見破る検索ソフトが開発され、導入している大学も増えています。（館内に新聞記事を掲示しています）ネット上にも「著作権」は存在します。ルールを守ってインターネット活用をしましょう。

インターネットからだけでなく、図書（書籍）から得られる情報もたくさんあります。全国の大学図書館には「相互貸借」というシステムがあり、本学図書館が所蔵していない資料でも所蔵館へ複写や貸し出し依頼をすることができます。カウンターで相談に応じていますので、気軽に利用してください。

図書館ガイダンスは今後も開催予定です。まだ参加していない方は、ふるってご参加ください。

『図書館ガイダンスに参加して』

生活環境学科Ⅰ回生1組 高田 梨央

今回の図書館ガイダンスに参加して、図書館についての様々な情報を得ることができました。高校の時とは違って、他大学や国立国会図書館からも資料を取り寄せることができるなど、便利な制度がたくさんあり、高校と大学での勉強の仕方の違いが、図書館ガイダンスを通じて実感できました。高校までの与えられた問題を解くだけの勉強ではなく、自分が疑問に思ったことを自分で資料を集め、理解するという勉強方法に適した制度をしっかりと利用し、自分の力にできるようにしたいと思いました。

私は高校の時によく図書室を利用していました。しかし本を探す際、大まかな場所しかわからず、いつも時間をかけて本を探していました。今回の図書館ガイダンスでは、本の簡単な探し方も知ることができました。本の背表紙にはカタカナや数字の書かれたラベルが貼ってあります。私たちは普段、このラベルをあまり気にしていませんが、これこそが本を簡単に探すヒントです。このラベルは、本の内容（分類番号）、著者名（名字の頭文字）、その本のシリーズの巻数や何年に書かれた本なのかも知ることができる、とても便利なものなのです。このラベルの意味を知っていると知らないのとでは、本を探すスピードに大きな差が出ます。私も、もう少し早くからこのことを知っていたら、読みたい本を探す時間が少なくなり、その分たくさんの本を読めたのに…と、少し損をしたなと感じました。

図書館ガイダンスでは、本の探し方だけでなく、インターネットの上手な利用法も知ることができました。大学ではレポートを書く機会も多くなり、手早く情報を集めるためにインターネットを利用する機会も増えました。インターネット

は本で探すよりも速く、さらに大量の情報を得ることができ、とても便利です。しかし細かい情報を探す場合、あまりにも膨大な量の中から知りたい情報だけを探し出すのは非常に難しいことです。また、インターネット上の情報はすべてが正しい情報とは限りません。誰もが自分の考えを自由に公開することができるインターネットには、間違った情報もたくさんあふれています。例えば、インターネットの百科事典ウィキペディアなどの情報は、誰でも自由に書き変えることが可能です。これは悪意のある誰かが、嘘の情報に書き変えることもできるということです。このようなことがあるということを知り、しっかりと頭に置き、インターネットで得た情報の信頼性を確認する習慣をつけることが大切だと思います。さらに、インターネットに掲載されている情報には著作権が生じています。情報が公式な所から出ているものかを確認し、その情報をレポートなどで利用する場合は、参考文献や引用文献にしたことを明記し、著作権を侵害することのないよう気をつけるべきだと感じました。

このガイダンスに参加して、図書館の利用方法だけでなく、インターネットや著作権についてなど、様々な知識を得ることができました。この知識は、学生の間だけでなく、社会人となってからも私の力となり続けると確信しています。少しでも図書館に興味のある人は、是非、図書館ガイダンスに参加してほしいと思いました。



読書感想文 佳作入選者と書名

幼児教育保育学科 1組 11番 貴島 彩加 「ハッピーバースデー
命かがやく瞬間」
幼児教育保育学科 1組 14番 菅内あかね 「グッドラック」

読書感想文・課題図書より

この目録は、I 回生対象の平成22年度読書感想文・課題図書・推薦図書の一部です。II 回生にもぜひ、読んでもらいたい本がたくさん推薦されていますので紹介します。

書名	著者名	発行所	分類番号	書名	著者名	発行所	分類番号
岩波新書 読書力	齋藤 孝	岩波書店	019	新潮文庫 西の魔女が死んだ	梨木 香歩	新潮社	913.6
14歳からの哲学 ー考えるための教科書	池田 晶子	トランスビュー	104	こころ	夏目 漱石	岩波書店	913.6
女性の品格 装いから生き方まで	坂東 眞理子	PHP研究所	159.6	文春文庫 手紙	東野 圭吾	文藝春秋	913.6
PHP文庫 美しい人に	渡辺 和子	PHP研究所	159.6	ソルハ	帚木 蓬生	あかね書房	913.6
新潮文庫 奇跡の人ヘレン・ケラー自伝	ヘレン・ケラー	新潮社	289	あ・うん	向田 邦子	文芸春秋	913.6
あなたは私の手になれますか ー心地よいケアを受けるために	小山内 美智子	中央法規出版	369	思い出トランプ	向田 邦子	新潮社	913.6
文春文庫plus 盲導犬クイールの一生	石黒 謙吾	文藝春秋	369.27	利休にたずねよ	山本 兼一	PHP研究所	913.6
窓ぎわのトットちゃん	黒柳 徹子	講談社	370.4	あまんきみこ童話集 (1)~(5)	あまんきみこ	ポプラ社	913.8
岩波新書 子どもの宇宙	河合 隼雄	岩波書店	371.45	忘れられない、あの一言	『いい人に会う』 編集部	岩波書店	914.6
これだけは知っておきたい 保育の禁句・保育の名句	豊田 君夫	黎明書房	376.1	五体不満足	乙武 洋匡	講談社	914.6
子どもがこっちを向く「ことばがけ」	原坂 一郎	ひかりのくに	376.1	父／こんなこと	幸田 文	新潮社	914.6
子育てハッピーアドバイス	明橋 大二	1万年堂出版	379.9	君と一緒に生きよう	森 絵都	毎日新聞社	914.6
園芸療法からの贈りもの ーしんまい園芸療法士のドタバタアメリカ留学記	頭士 智美	愛育社	493.72	だから、あなたも生きぬいて	大平 光代	講談社	916
認知症を生きる ー思い出は薄れても希望の日は消えない	松本 一生	昭和堂	493.75	アレルギー・マーチと向き合って	関根 友美	朝日新聞出版	916
マガジンハウス文庫 いのちの食卓	辰巳 芳子	マガジンハウス	596.04	走れメロス	太宰 治	新潮社	918
抱かれる子どもはよい子に育つ ーこころをはぐくむ愛の心理学	石田 勝正	PHP研究所	599	野菊の墓	伊藤 左千夫	岩波書店	918.68
木を植えたひと	ジャン・ジオノ	世界文化社	726.5	若草物語	ルーザ・オールコット	福音館書店	933
新潮新書 人は見た目が9割	竹内 一郎	新潮社	801.9	もうひとつの家族	キャサリン・パターソン	偕成社	933
ハッピーバースデー 命かがやく瞬間	青木和雄	金の星社	913.6	赤毛のアン	ルーシー・モード・ モンゴメリ	集英社	933
恍惚の人	有吉 佐和子	新潮社	913.6	大きな森の小さな家	ロー・インガルス・ ワイルダー	講談社	933
とべないホテル	小沢 昭巳	ハート出版	913.6	眼を見なさい! ーアスペルガーとともに生きる	ジョン・エルダー・ ロピソン	東京書籍	936
新潮文庫 名人(改版)	川端 康成	新潮社	913.6	集英社文庫 星の王子さま	サン・テグジュペリ 池澤夏樹(訳)	集英社	953
人間失格	太宰 治	新潮社	913.6	グッドラック	アレックス・ロピラ他	ポプラ社	963
二十四の瞳	壺井 栄	新潮社	913.6				

◆ ■ ◆ あ ・ と ・ が ・ き ◆ ■ ◆

大学の基本的な教育研究活動は、質の良い情報を収集することである。大学教育では必要な知識・情報を獲得する上で授業に加えて学生自身の主体的な学習が重要である。最近、これまでの伝統的な情報収集に代わってインターネットを利用した情報収集が一般的になってきた。多様な知識や情報を獲得する上で大学図書館の重要性は変わらないとしても、情報収集の仕方が変わってきたのである。この図書館ニュースでも、図書に関する様々の原稿が掲載され、読むこと・調べることがいかに人生を豊かにするかを垣間見ることが出来る。素晴らしい原稿をお寄せいただいた皆様に心からの感謝を申し上げます。(南)



編集発行

甲子園短期大学図書館

〒663-8107 西宮市瓦林町4-25

TEL.0798(65)3300/FAX.0798(67)9101